ふじのくにの文化力を世界に示した 静岡県舞台芸術センター（SPAC）の快挙

今年7月、静岡県舞台芸術センター（SPAC）が世界三大演劇祭の1つに数えられるフランスの「アヴィニョン演劇祭」で、アジアの劇団として初となる栄えあるオープニングを務め、世界的な評価を手にした。その快挙の背景と将来性について紹介する。

フランス「アヴィニョン演劇祭」で観客から喝采を浴びるSPAC。アジアの劇団がメイン会場の法王庁中庭で開幕を飾ったのは史上初の快挙。

日本人の感性で世界の観衆を圧倒

今年7月、静岡県舞台芸術センター（SPAC）は、世界三大演劇祭の1つに数えられるフランスの「アヴィニョン演劇祭」に招聘され、オープニングを堂々と務めた。71年の歴史を誇る同演劇祭で、アジアの劇団がメイン会場である法王庁※中庭で開幕を飾ったのは史上初。SPACの名を世界に広める快挙となった。

上演されたのは、SPAC制作のギリシャ悲劇「アンティゴネ」。人を〝敵と味方〟に分けない古代ギリシャの王女アンティゴネの思想に、日本特有の「死んだら皆、等しく仏になれる」という死生観を重ね、荘厳な舞台芸術を創りあげた。上演が終わると約2千人の観客は一斉にスタンディングオベーションで称賛。惜しみない拍手は、今年本格活動開始から20年を迎えたSPACが世界クラスの劇団として認められた証だ。

地域に開かれた公立劇団

1997年に本格的に活動を始めたSPACは、公立の劇団として、日本で初めて専用の劇場と稽古場を持ち、俳優や制作スタッフが一体となって作品の創造と上演を手がけながら、優れた舞台芸術の紹介や舞台芸術家の育成も行っている。設立当初から海外の劇団を招聘するとともに、SPAC自体も国内外を飛び回っているが、2007年に宮城聰さんが芸術総監督に就任すると、地域と連携した取り組みを活性化。中高生舞台芸術鑑賞事業、シアタースクール（子どもを対象とした演劇体験プログラム）、リーディング・カフェ（台本朗読の体験会）などのプロジェクトを次々と打ち出し、本県が目指す「ふじのくに芸術回廊の実現」に向けて大きな力を発揮している。

文化には「人を豊かにする」「社会・経済に貢献する」「地域社会の基盤を形成する」など様々な力がある。今回のSPACの快挙は、文化力向上に向けた本県の取り組みを強力に後押しする出来事となった。

SPAC主催の「シアタースクール」。優れた舞台人を育てるプログラムにも積極的。

SPACの芸術総監督の宮城聰さん。県民に開かれた公立劇団を世界クラスへ導いた。

静岡だから生まれた「アンティゴネ」

芸術総監督の宮城さんは、「静岡でなければ『アンティゴネ』は生まれなかった」と語る。

「静岡以外にも地方劇団や公立劇場はいくつもありますが、その多くは都市部から劇団や役者を招いて公演を打っています。それでは舞台芸術が地域に根付きません。仮に演劇を志す若者が現れても、その人は都市部へ出て行ってしまうでしょう。だから私は、SPACを役者やスタッフとともに静岡で暮らし、積極的に地域と触れ合う劇団にしました。県民の皆さんが役者と舞台の上だけでなく、日常生活の中でも出会うことによって、演劇を身近に感じてほしいのです」。

「東京のような大都市には演劇愛好家がたくさんいるので、とがった作品が好まれ、客席も埋まります。でも、地方では成立しません。ですから、静岡では分かりやすさを意識して作品を作ります。これはレベルを下げるという意味ではありません。誰でも気軽に入れる間口を用意しておくという感覚です。その試みは、言語も文化も異なる世界の観客を念頭に置いた演劇を追求する上で、大いに役立っています」。

「アヴィニョン公演の約2カ月前、静岡市の駿府城公園で行われた「ふじのくに野外芸術フェスタ」で『アンティゴネ』を先行上演しました。この公演前、私は『内容をもっと平易にすべきでは』と案じていましたが、結果的に静岡の人たちに受け入れられ、手応えも感じました。そこで私は、アヴィニョンでも同じように上演しました。もしも私が東京にいたら『アンティゴネ』は生まれなかったでしょう。静岡にいたから、静岡の劇団だったから生まれたと思います。この思いは、私にとって驚きであり、発見でもありました」。

県民の誇りとして本県の文化力を牽引

設立当初から県民に開かれた劇団として活動を続けてきたSPACは、今回の偉業を受けて、世界クラスのブランドとして認知された。本県でも開催が決定している2020年東京オリンピック・パラリンピックは、スポーツの祭典であると同時に、文化の祭典でもある。県は今後、国内で開催される史上最大規模とも言われる文化プログラムにおいてもSPACブランドを活用し、本県の魅力を国内外に発信していく。

人を豊かにし、社会・経済に貢献し、地域社会の基盤を形成する文化の力。SPACは、これからも県民の誇りとして、本県の文化力を牽引していく。

※14世紀のアヴィニョン捕囚時代の遺構である旧教皇庁。

写真：新 良太